

令和7年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立城南中学校

1 自己評価書

教育目標		自立と共生の力を持つ生徒の育成					
基本方針	1 自主・自律の精神に富み、活気ある本校教育の伝統を継承し、主体的な教育活動の展開により、自信と誇りを持ち、可能性に挑戦する生徒の育成に努める。 2 保護者や地域社会と連携した生徒指導に努めると共に、時代の変化に対応できる確かな学力と豊かな感性を持ち、他者を尊重することのできる生徒の育成に努める。 3 地域と教育理念を共有し、12小学校区の人、こと、もの、情報を効果的に繋げ、地域と共にある学校を実現することで、郷土愛を持ち社会のために貢献できる生徒の育成に努める。						
	1 生徒会活動の活性化と生徒指導の充実 2 生きる力を育む学校の推進(知・徳・体の充実) 3 安全・安心な学校の推進 4 家庭・地域から信頼され誇りとされる学校の推進 5 働き方改革の推進						
評価項目	評価小項目		評価の観点		評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	A		
				・具体的な対策の実施	A		
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	B		
				・児童生徒アンケート	A		
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート	A	A	
				・児童生徒アンケート	A		
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート	B	B	
				・保護者アンケート	B		
				・児童生徒アンケート	A		
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	C	B	
				・保護者アンケート	A		
				・児童生徒アンケート	B		
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート	B	A	
				・保護者アンケート	A		
				・児童生徒アンケート	A		
(成果と課題) ○城南モデルを活用した、学習規律の定着・学習訓練の確立が図れた。 ○自分の学習の仕方を考え、定着させるように働きかけて、実践する生徒が増えた。 ○ワークブックとICT端末を利用してバランスよく課題を出すことができた。 ○問いを持たせた授業により主体的に学ばせることができ、学習内容の定着につなげることができた。 ●書く力の育成が課題である。 ●家庭学習の取組の確認は不十分だった。 ●教師によって、授業規律の徹底に偏りがある。							
(改善策等) ・深い学びや、個別最適な学びへのアプローチの仕方について研修を深める。 ・生徒にも確かな学力が備わるように、様々な授業形態を工夫していきたい。 ・授業の中で問題を解く時間をこれまでよりも長く取り、個別に対応できるようにする。 ・自己学習力の育成(SNSの利用時間のコントロール)を目指す。 ・基礎的・基本的な学力が身に付きにくい生徒に対する働きかけを更に研究したい。							

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価					
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A					
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A				
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A				
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B B	B				
			③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A		
					④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B A	B
							自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B	
	(成果と課題)									
	○学年部を中心に組織的な生徒指導にあたることができた。									
	○保護者と連携・協力することができた。									
	○BGM着席について、少し時間はかかるが、静かに待つことができるようになった。									
	●今の時代にあったけじめのつけ方の指導について考えていく必要がある。									
	●指導が入りにくい生徒への対応が不十分だった。									
	●長期欠席生徒への対応が不十分だった。									
	●不登校生徒のサポートルーム利用率を高めるための工夫を考える必要がある。									
	●特性が強い生徒の問題行動への対応に困った。									
●担当医や関係諸機関を含めたケース会議を開いたが、具体的な対応策が出ていない。										
(改善策等)										
・役割分担を明確にして更に充実させたい。										
・個別に声掛けしていくことや生徒への見守りを連携していきたい。										
・指導に統一感がないことが多く感じる。										
・BGMで切り替えができるようにする。										
・言語環境を中心とした、メリハリの効いた生徒指導										
・不登校生徒向けのサポートルーム通信の配付。										

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	B	B	
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B		
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。（枠を移動しました。） 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A	
				・教師アンケート	B	B	
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	B	B	
	(成果と課題) ○ICTを活用することで、働き方を見直した。 ○働き方についての意識が高まった。 ○相談しやすい環境にある。 ○部活動終了が30分早くなり、帰宅時間も早くなった。 ○下校、放課時刻の繰り上げによる時間の創出が図れた。 ○労働に関する個人の意識(文化)の転換 ●具体的な実践校時を工夫するなどしているが、清掃をカットすると、学校が汚くなることが課題である。 ●その日によって校時が違い、やや混乱している。 ●退勤時間が全体的に遅い。（超過勤務時間が大幅にオーバーしている。）						
	(改善策等) ・生徒も職員も負担の少ない時程が必要。 ・自分自身が計画的に仕事を進める。 ・特別支援での全校的な支援体制を整える。						
	評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
	地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた（校内体制）。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化（地域・保護者へ）を図り、 熟議等の結果を基に 、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	B
					・教師アンケート	B	
・保護者アンケート					B		
・地域アンケート					A		
②		情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	A		
				・地域アンケート	A		
③		来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	B		
				・地域アンケート	A		
(成果と課題) ○学級通信を使い、クラスの様子を伝えることができた。 ○地域の意見を真摯に受けとめ、改善につなげた。 ●地域と学校の役割分担の明確化を図る必要がある。							
(改善策等) ・学級通信は月1回発行しているが、月2回発行を目指したい。							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満